

氷見漁港(富山県管理・第3種)



- 漁港の所在地 氷見市中央町
- 漁港の指定 昭和27年6月23日 農林省告示第271号
- 漁港管理者の指定 昭和31年11月17日 農林省告示第888号
- 沿革

氷見の漁港のおこりは古く、藩政期以前の漁業は定かではないが、藩政期に入ると引網や釣魚のほかに藁台網が行われた。釣船や網船の多くは、湊川河口や上庄川河口を基地としていた。明治20年湊川河口に魚市場が設けられ、氷見各地の漁獲物が運び込まれたが、明治32年、現在の氷見漁港の上庄川河口に魚市場ができて業務をひろめ、大正末期には湊川河口の魚市場を合併した。

この頃から、上庄川河口が氷見漁港として発展し、大正12年～昭和3年に第1次氷見漁港修築工事として、北防波堤、旧南防波堤が築かれた。昭和8年第2次修築工事として、防波堤が増築された。

その後、上庄川による港内の土砂対策のため、昭和30・31年局部改良事業で西導流堤を築き、上庄川の流れを加納方面に変えた。昭和35年東導流堤を上庄川右岸に築き、昭和42年、この2導流堤の間に水門を設け漂砂の堆積を防止した。

第3～5次整備計画で上庄川河口より南側に泊地の拡張と物揚場を新設し、第6～7次整備計画では、東泊地を中心とした外郭施設、係留施設、施設用地等を整備した。その後、漁港の南側湊川までの区間で拡張計画に着手し、第8次整備計画(H4)で南白地等の供用を開始した。第9次整備計画では、「新マリノバージョン拠点交流促進総合整備(ふれあい整備)計画」により、新たに埋立てにより臨港道路や親水護岸、緑地広場の整備を行い、平成11年には傾斜主塔の斜張橋「比美乃江大橋」が完成した。

平成14年以降の新第1～2次漁港漁場整備長期計画では、広域漁港整備事業により臨港道路、親水護岸の整備、北防波堤の改良を行うとともに、漁港の衛生管理向上にかかわる施設整備を行った。

新第3次長期計画では、水産物供給基盤機能保全事業による護岸補修や、漁港施設機能強化事業による外郭施設の耐震耐波工事を進めている。